

複式学級における活用

南会津郡下郷町立旭田小学校

一、研究実践例

(複式学級一・二学年算数「ひき算」)

(一) 二学年では、何百より何十を引く減法計算の仕方、被減数一の位と十の位が零である場合の計算方法を理解させる。(一学年は略)

(二) 課題は握の段階では、同単元異教材を同時に扱い、課題解決の見通しと計画の段階では、グループ学習でシート磁気録音機を活用しての面接学習とした。そのために、学習の手引きを作成し、児童たちだけで学習できるように配慮した。

(三) 課題解決の段階では、計算の原理を理解させるためにシート式磁気録音機を活用させ、一学年の直接指導に当たるようにした。

(四) シート

1	<p>200-25のけいさん</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>の位</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>の位</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>⑦</td> <td>⑦</td> <td>⑦</td> <td></td> </tr> </table> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>→9-10</td> <td>1→9</td> <td>1→</td> </tr> <tr> <td>200</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>- 25</td> <td>- 25</td> <td>- 25</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>75</td> <td>175</td> </tr> </table> <p>10-5=5 9-2=7 くり下がって1</p>	2	0	0	5	の位	+	0	2	5	の位	⑦	⑦	⑦	⑦		→9-10	1→9	1→	200	200	200	- 25	- 25	- 25	5	75	175
2	0	0	5	の位																								
+	0	2	5	の位																								
⑦	⑦	⑦	⑦																									
→9-10	1→9	1→																										
200	200	200																										
- 25	- 25	- 25																										
5	75	175																										
2	<table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>- 48</td> <td>- 48</td> <td>- 48</td> </tr> <tr> <td>262</td> <td>352</td> <td>252</td> </tr> </table>	300	300	300	- 48	- 48	- 48	262	352	252																		
300	300	300																										
- 48	- 48	- 48																										
262	352	252																										

(五) シート原稿(自作)

・ 200-25の計算のしかたを考えてみましょう。くり下げないと引くことができない位は何の位でしょう。右の□の中に書き入れてください。

・ 一の位と十の位ですね。それではこの問題を計算して⑦⑦⑦の中に答えを書きましょう。

・ いままの問題をいっしょに考えてみましょう。一の位は0-5ですから、くり下げないと引くことができません。ところがとなりの十の位も0ですからくり下げられません。そのときは百の位から1くり下げます。そうすると十の位は10だったところが10になります。その10から一の位に1くり下げます。くり下げた1は一の位で10になります。

(六) 結果は発展的な計算問題も掌握でき、正答率八十七・五パーセントの好結果を得ることができた。しかし、有効な面接指導をねらったのシート式磁気録音機活用については、学習方法訓練の徹底、リーダーの養成、学習意識の持続などに重きをおいて指導してきた。

二、効果的な活用の仕方

複式学級における面接指導は、反復練習的なものだけに終わりにやさい。このような問題を克服するためには、どのような指導方法があるのか、また解決の手だてとしてシート式磁気録音機がどのように役立つものであるかを実践例によって考察してみたい。

(一) 課題は握の段階で、特に面接指導で重要なことは、本時の課題が真に児童のものとなり、学習意識が持続されなければならぬに到達することは期待できないし、学習意欲が低下し主体的な学習の成立も図れない。空位の二段繰り下りの学習は、

から10-5で⑦は5です。十の位は1の位に1くり下げたので9-2で⑦は7です。つぎは百の位です。百の位は引く数がありません。⑦は2から1くり下げたのこの1です。答えは175です。

・ 2つのわくをごろんなさい。300-48の計算を3人がやりました。答えは同じになりました。それぞれ自分で考え、正しいのに○をつけましょう。

・ いままの問題が正しいかどうかグループで話し合い、まちがっていたらくり下げに気をつけてもう一度やりましょう。もう一度みんな考えてみましょう。一の位は0-8でくり下げないと引くことができません。十の位……(以下省略)

$$\begin{array}{r}
 213 \\
 - 25 \\
 \hline
 210 \\
 - 25 \\
 \hline
 200 \\
 - 25 \\
 \hline
 \end{array}$$

(二) 課題解決の見通しの段階では、既有的な学習経験を生かして数学的な見方をしていくことが重要である。この段階で面接指導をする場合でもシート式磁気録音機を有効に活用してその方向を示唆することができる。既習事項で、この問題を解くのに使うことができる考え方はないか。前